

10m, 観測幅数 10km の高分解能データはこの投影法で幾何補正されることが一般的である。

さらに大縮尺の地図の場合は, より高精度の地図投影法が用いられる。日本では平面直角座標系という日本独自の投影法が利用されている。これは UTM と同様に Gauss-Kruger 図法が用いられているが, UTM の原点が赤道にあるのに対し, 日本を経度差がほぼ $1^{\circ} 30'$ からなる 19 の小さな座標系に分割し, それぞれに対して原点を設定することにより位置誤差を小さくしたものである。中央子午線での縮尺係数が 0.9999, 中央子午線から東西に約 90km の地点での縮尺係数が 1.0000 となるように設定されており, 1つの座標系内での縮尺誤差は 0.0001 以内である。1/2,500, 1/5,000 国土基本図等に利用されている。

[4] その他

(a) 等緯度経度図法

等間隔に分割された緯度, 経度を画像座標のライン番号, ピクセル番号に見立てた図法で, リモートセンシング画像を扱う場合には簡便で利用し易い。Plate Caree と表現されることもある。

(b) 世界全図

世界規模の環境問題が注目されるようになってから, 全世界を1つの画像として表現する必要性が生じてきた。前記の地図投影法のうち, ポーラステレオ図法および等緯度経度図法がこの目的のために利用されることが多い。しかし, これらの図法は正積図法ではないため一見しての定量的な判断には不便である。そこで, 正積図法や正積に近い図法の幾つかも利用されることがある。主なものとしては, 緯線を平行な直線, 経線を放物線で表現するメルカトル図法, 経線が正弦曲線で表現されるサンソン図法, 両者を組み合わせたグールド図法などがある。Terra の MODIS によるグローバルデータセットの一部ではサンソン図法が, NOAA による AVHRR Land Pathfinder データセットではグールド図法が使われている。